

株式の状況

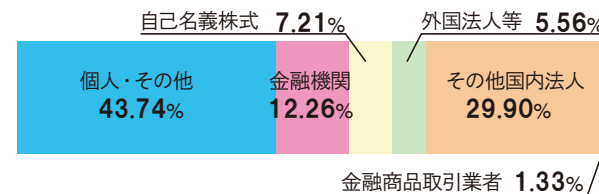
発行可能株式総数	54,767,100 株
発行済株式の総数	19,058,587 株
	(自己株式 1,374,529 株を含む。)
株主数	4,442 名

大株主(上位10位)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
有限会社ビー・エッチ	1,841	10.41
財団法人佐々木環境技術振興財団	1,440	8.14
株式会社ダイニチビル	1,361	7.70
ダイニチ工業従業員持株会	1,091	6.17
株式会社第四銀行	850	4.81
吉井久夫	570	3.23
佐々木文雄	560	3.17
吉井久美子	556	3.15
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	403	2.28
渥美るみ子	391	2.22

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(1,374,529株)を除いて計算しております。

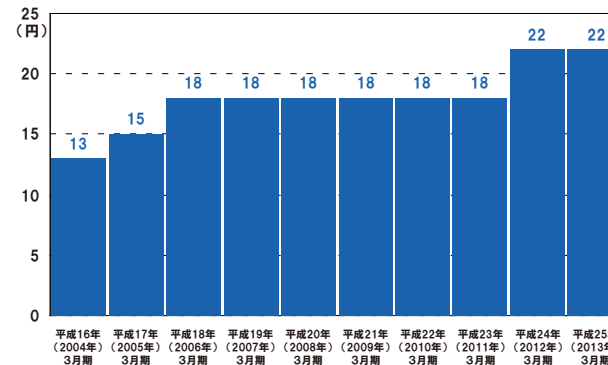
所得者別株式比率



株式メモ

社名	ダイニチ工業株式会社
証券コード	5951
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
公告方法	当社のホームページ (http://www.dainichi-net.co.jp/)に 掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由に よって電子公告をすることができない 場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所市場第一部
株主名簿管理人 及び特別口座 の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
【郵便物送付先】	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
【電話照会先】	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)

1株あたりの配当金の推移



ダイニチ工業株式会社
〒950-1295 新潟県新潟市南区北田中 780 番地 6

DAINICHI



ダイニチ工業株式会社

株主通信

第50期 期末ご報告

平成24年4月1日~平成25年3月31日

【証券コード：5951】

Top Message トップメッセージ

株主の皆様におかれましては、平素より当社に対し格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございます御礼申し上げます。

ここに、当社第50期事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)を終了いたしましたので、事業の概況ならびに決算の状況をご報告申し上げます。

当事業年度におきましては売上の主力となる石油ファンヒーターでは、使いやすさとデザイン性を追求した多機能モデル2機種を新規に開発して発売するとともに、販売チャネルの主軸である家電量販店でのプロモーションの強化など販売支援活動を積極的に行ってまいりました。しかしながら灯油価格の上昇や他の暖房機器への需要シフトの影響により売上高は前事業年度を下回りました。

一方環境機器におきましては、加湿器に新たに3機種を追加して販売は順調に推移いたしました。またJ×日鉱日石エネルギー株式会社より生産受託している家庭用燃料電池システムが当事業年度より通年生産に移行したことで、大きく売上を拡大いたしました。



代表取締役会長
佐々木文雄



代表取締役社長
吉井久夫

これらを踏まえ、第51期におきましては、石油暖房機器を中心に更なる商品力の向上と積極的な販促活動を展開することで、売上高240億円、営業利益19億円、経常利益19億円、当期純利益12億円を見込んでおります。

目標の達成に全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月

当事業年度の業績について

当事業年度におけるわが国経済は、世界経済の減速等を背景として弱い動きがみられました。企業収益は製造業を中心に弱含みで推移し、企業の業況判断は製造業を中心に慎重さが残るものの、改善の動きもみられました。

また、物価の動向は総合してみると緩やかなデフレ状況にありましたが、個人消費は底堅い動きがみられました。

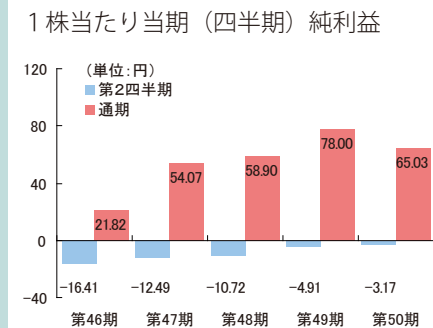
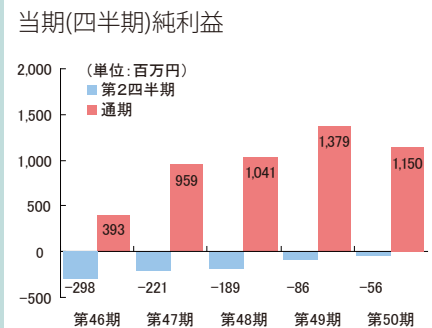
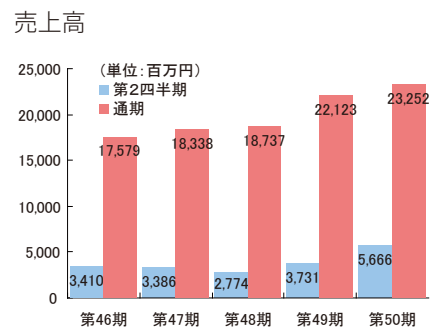
当社の主力分野であります石油暖房機器業界におきましては、前年より引き続き東日本大震災の復旧需要や節電意識の高まりに伴い石油暖房機器は注目されましたが、需要の反動減により市場規模は一昨年並みとなりました。

こうしたなかにおいて当社は、商品の安全性と信頼性を重視した体制を強固にする活動を継続して実施し、お客様のニーズに沿った商品開発、販売チャネルに適した

業績の推移	当事業年度 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)	前事業年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
売上高(千円)	23,252,444	22,123,632
営業利益(千円)	1,827,583	2,383,699
経常利益(千円)	1,813,648	2,404,992
当期純利益(千円)	1,150,029	1,379,329
資産合計(千円)	29,329,923	28,331,254
純資産合計(千円)	24,404,779	23,507,061
1株当たり当期純利益(円)	65.03	78.00

商品ラインナップ展開を行って販売活動を継続してまいりました。また、全社的なコスト低減、経費削減活動を推進し、経営体質の改善に努めてまいりました。

財務ハイライト



次期の見通し

次期の見通しといたしましては、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景に、マインドの改善にも支えられ、次第に景気回復へ向かうことが期待されますが、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっております。また、雇用・所得環境の先行き等にも注意が必要であると考えております。

このような環境のもとで当社といたしましては、お客様から信頼され支持されることを全ての活動の基本とし、品質と製品安全の確保を重視し重大製品事故を未然に防止する体制を継続することに努め、多様化する消費者ニーズに即した商品を提供してまいります。また、社内の合理化を進め経営体質改善の取り組みを継続して行ってまいります。

お客様の生活を支えるダイニチのものづくり

昭和 39 年に創業した当社は
また、社は「わが社の方針」の

来期 50 周年を迎えることとなります。創業より培った石油燃焼技術が現在の製品のほとんどに受け継がれ、活用されています。
『使用者にいつまでも愛されるよい商品をつくる』は、私達がつくる全ての製品に対する基本的精神となっています。

**石油暖房
機器** 売上高 168 億 83 百万円
(前期比 10.3%減)

石油ファンヒーター

個室暖房に適した小型タイプからパワフルな大型タイプまで、豊富なラインナップが魅力の当社石油ファンヒーター。なかでも当社が特に力を入れているのがDXタイプです。

8段階油量モニターやバックライト付大型液晶表示など最上位モデルにふさわしい機能はもとより、前面パネルには贅沢な印刷鋼板を使用。小型機種では大胆なブルーやレッド、大型機種にはシックな木目調、また全てに高級感あふれる大理石調と、塗装では難しい「柄」を表現することでお部屋のインテリアとしても楽しめるタイプとなっています。



**環境
機器** 売上高 57 億 91 百万円 (前期比 103.1%増)

加湿器

当事業年度は、省電力性に優れ長時間使用で維持費に差が出る気化式タイプを2機種、更には面倒なフィルターの洗浄の手間を軽減したフィルター交換タイプ1機種をラインナップに追加しました。

従来のハイブリッド式タイプも併せた磐石のラインナップ構成でシェアは更に伸長し、環境機器の売上向上を支えました。

日本製への信頼とともに、性能や品質への高い評価はゆるぎなく、今後も更なる伸びが期待できる商品です。

家庭用燃料電池システム

JX日鉱日石エネルギー株式会社より生産受託している家庭用燃料電池システムですが、2年目の当事業年度は通年生産に移行するとともに日々の生産量も倍増しました。

以上により環境機器全体の売上高は前事業年度比で2倍以上となり、当社の売上全体に占める割合も24.9%に伸長しました。



その他 売上高 5 億 77 百万円
(前期比 26.9%増)

別売部品・コーヒーメーカーなど

その他部門の増加は主に別売部品の伸びによるものです。特に加湿器フィルターは、性能維持のために定期的なお手入れと交換が必要で、販売台数の累積に連動して注文も大きく増えています。

また生豆から焙煎するコーヒーメーカー「カフェプロ」シリーズは、コーヒー愛好家や自家焙煎コーヒー店などからの根強い人気に支えられています。

当社運営のインターネット通販サイト「カフェプロ」もお客様との密接なコミュニケーションによって、利用者も年々増加をしています。



●販売サイトのほか、ブログやfacebookなどのSNSを活用し、ファンが増えています。

「お客様にとって、本当にこだわり、設計からその品質を更に高める

の快適とは何か？」これがダイニチ工業の発想の原点です。毎日使うものだからこそ、高い品質、使いやすく便利な機能、安全性組立にいたるまで国内自社工場で一貫生産し、皆様にお届けしています。ための生産部の取り組み、品質の良さをより深く知ってもらうための営業部の取り組みをご紹介します。

生産部門

「人のため」の自動化、ロボット化を大きく推進。 人も会社も大きく変わり、成長した一年となりました。

生産部門の役割は、良い製品をお求めやすい価格で遅滞なく販売部門に提供することですが、この一年はこれまで人が行ってきた仕事をロボットや機械に移管する改革に取り組んできました。それは人が人として尊重され、気持ちよく働ける職場をつくるのが大切と考えているからです。

ロボット化、自動化のポイントは「移動のムダの低減」と「困難作業の排除」です。組立作業やプレス作業を大きく「加工」と定義すれば、工程が進むごとに形を変えて初めてそこに「付加価値」が生まれます。部品の「運搬・移動」は何万回行っても形が変わらず価値は生まれませんが、この重労働をこれまで作業



が長年続けてきました。今期は「部品移動」を極力低減するため工場内のレイアウトを大幅に変更するとともに、コンベアやリフターなど大小多くの運搬機械を導入し、人の負荷を軽減しました。

が長年続けてきました。

今期は「部品移動」を極力低減するため工場内のレイアウトを大幅に変更するとともに、コンベアやリフターなど大小多くの運搬機械を導入し、人の負荷を軽減しました。

また困難な作業は多数のロボット導入で解決をはかっています。例えばねじをひとつ締める作業であっても、一日の生産数で考えると7,000回近くに及び、作業者の『手や手首が痛い』などの苦労の上に成り立っていました。体力的にきつい仕事を人にやらせるのは良いことではありません。こうした困難作業を改善し、楽に簡単にできる仕事に切り替えていこうという思いで自動化・ロボット化を大きく推進しています。

人の能力はいくらでも成長できます。機械ができる作業があれば、人が機械を使いこなせるように仕事の質を変化させることが人の成長にかなった仕事の仕方だと思っています。今回の「移動のムダの低減」と「困難作業の排除」に挑戦することにより、人が変わり、会社が変わり、成長しました。

今後は大きく変わりゆく仕事環境に作業員全員のベクトルをあわせることに力を入れ、より強固な体制づくりをめざしてまいります。



取締役生産部長
花野 哲行



●一日150回近く往復していたファンヒーターの枠の運搬作業もレイアウトの変更とベルトコンベアの導入で運搬作業をなくしました。

営業部門

忙しい店舗担当者の方へも営業マンが出向き、 商品理解を深めてもらうことに尽力しました。

当社売上の7割を占める石油ファンヒーター、今期はただのシェア1位ではなく『2位メーカーが追いつけないシェアNO.1』をめざし、

- ・主要量販店との更なる関係強化
 - ・巡回頻度・効率アップ
 - ・商品教育の徹底
- をはかる活動を展開してきました。

特に「商品教育の徹底」については、当社の商品を店舗担当の皆様により深く知っていただくために全国各地で集合勉強会を実施しました。

しかしながら、店舗担当の方々の基本は店頭でお客様への対応を行うのが仕事です。お店によっては勉強会の実施が難しい場合もあるため、新たな仕組として携帯タブレット端末に社内



●携帯タブレットを起動し、ダイニチ販促アプリをタップ。欲しい情報を選んで動画を開始!

作成した商品知識満載のアプリを組み込み、いつでもどこでも商品の優位性を理解していただけるようにしました。

また店舗担当者には「実物」を体感してもらいながら説明をするのが最も効果的ですが、次に効果があるのは「動画」による説明と考え、携帯タブレットには動画を多数組み込み、確かな手ごたえを得ました。

その結果、今期は石油ファンヒーターの台数シェア、金額シェアともに前年を越え、加湿器も台数シェアを大きく伸ばし、ハイブリッド式・気化式では1位となりました。

今後も「強い会社」=「勝ち続ける会社」を念頭に徹底的に勝負してまいります。



●営業マンが店舗にて動画で説明を行い、商品理解を深めてもらいます。



取締役営業部長
田村 正裕

特集 ダイニチの人づくり

事業を行う上で大切なのは「人」。
当社は「人」の成長が企業の成長につながると考え、人づくりの取り組みを行っています。

お客様ご相談窓口

お問い合わせはプロである従業員が対応。 より質の高い対応を目指し、お客様の声をリアルタイムに共有します。

家電メーカーなどは、外部のサポートサービス代行会社を利用し、お問い合わせ対応を行っているところもありますが、当社は従業員が行っています。

これは製品に関してはプロである従業員がお応えすることにより、質の高い対応ができること、またお客様の声をリアルタイムに全社的に情報を共有、製品に反映できる品質管理体制を取ることができるためです。

またお客様ご相談窓口では、より多くの方におつなぎで



きるよう、日々オペレーターの対応技術の向上などに力を入れています。

①電話対応技能検定の受講を実施

電話受付の基礎を一から確認することと、資格取得による個々のスキルアップを目的として実施しています。



●比較のお問い合わせが少ない夏の時期にオペレーターはセミナー、検定等を受講し、技術向上に務めています。

②社内勉強会の実施

日々のお問い合わせはお客様の許可を得て録音を行っています。録音データは社内で定期的に行われる勉強会でオペレーター全員でディスカッションを行い、答え方や考え方の方向性のベクトルを合わせるよう心がけています。

また、電気やファンヒーターの燃焼原理など基礎知識の講習、実際の修理品の修理を行うことにより、製品の知識を習得し、迅速・正確・丁寧な対応ができるよう、心がけています。

●「一人でも多くのダイニチファンが生まれるように」。これをモットーに日々対応を行っています。

特集 ダイニチの地域とのかかわり

当社は、スポーツを通じて新潟がより元気になって欲しいとの思いを込め、地元スポーツチームのスポンサー活動を行っています。

バスケットボール

新潟アルビレックスBB

日本プロバスケットボールリーグ (bjリーグ) に所属するプロバスケットボールチーム「新潟アルビレックスBB」を平成21年よりチームスポンサーとして応援しています。

なお、平成24年12月にはフィルター交換式の加湿器「HD-FC500」と「新潟アルビレックスBB」とのコラボレーション商品として「HD-FC500B」を発売、当社のWebサイト及び、試合会場にて限定販売を行い、売上の一部はチーム強化費の支援金に充てられました。



●新潟アルビレックスBBとのコラボレーション商品「HD-FC500B」の販売セレモニーの様子。新しい試みと新聞やテレビ、ネットニュースでも取り上げられました。

サッカー

アルビレックス新潟

日本プロサッカーリーグ (Jリーグ) に加盟するプロサッカークラブ「アルビレックス新潟」のオフィシャルスポンサーとして平成21年より応援しています。



© 1997 ALBIREX NIIGATA INC.

野球

新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ

新潟アルビレックス・ベースボール・クラブは、プロ野球独立リーグ「ベースボール・チャレンジ・リーグ」に加盟するプロ野球チームです。当社平成23年よりオフィシャルスポンサーとして応援しています。



貸借対照表

(単位：千円/千円未満切捨)

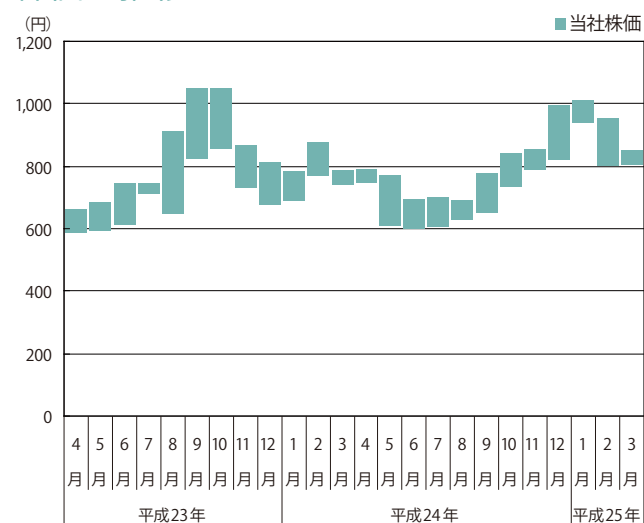
	当事業年度 平成25年 3月31日現在	前事業年度 平成24年 3月31日現在
流動資産	22,299,491	21,154,314
現金及び預金	10,000,112	9,866,779
受取手形	1,175,368	1,165,667
売掛金	4,596,074	3,493,924
有価証券	197,477	995,766
製品	4,394,918	4,082,461
仕掛品	297,402	159,356
原材料及び貯蔵品	1,158,426	992,141
前払費用	33,521	27,522
繰延税金資産	279,334	281,873
その他の流動資産	178,654	98,221
貸倒引当金	△ 11,800	△ 9,400
有形固定資産	5,270,253	4,668,043
無形固定資産	89,219	42,950
投資その他の資産	1,670,958	2,465,945
資産合計	29,329,923	28,331,254
流動負債	3,767,806	3,735,164
買掛金	1,097,846	1,018,927
未払金	431,281	318,640
未払費用	173,372	167,493
未払法人税等	650,050	977,915
前受金	11,259	17,347
預り金	889,485	758,024
賞与引当金	251,711	234,014
製品保証引当金	262,800	242,800
固定負債	1,157,336	1,089,028
再評価に係る繰延税金負債	118,748	118,748
退職給付引当金	273,488	227,280
役員退職慰労引当金	765,100	743,000
負債合計	4,925,143	4,824,193
株主資本	24,249,479	23,488,645
資本金	4,058,813	4,058,813
資本剰余金	4,526,572	4,526,572
利益剰余金	16,653,549	15,892,573
自己株式	△ 989,455	△ 989,313
評価・換算差額等	155,299	18,415
純資産合計	24,404,779	23,507,061
負債純資産合計	29,329,923	28,331,254

損益計算書

(単位：千円/千円未満切捨)

	当事業年度 (平成24年4月1日 ～ 平成25年3月31日)	前事業年度 (平成23年4月1日 ～ 平成24年3月31日)
売上高	23,252,444	22,123,632
売上原価	17,644,300	15,994,255
売上総利益	5,608,144	6,129,377
販売費及び一般管理費	3,780,560	3,745,677
営業利益	1,827,583	2,383,699
営業外収益	173,770	213,573
営業外費用	187,704	192,279
経常利益	1,813,648	2,404,992
特別利益	171	778
特別損失	40,580	28,326
税引前当期純利益	1,773,239	2,377,445
法人税、住民税及び事業税	640,363	967,000
法人税等還付税額	△ 19,040	—
法人税等調整額	1,887	31,116
当期純利益	1,150,029	1,379,329

株価の推移



Corporate Data 会社概要

平成25年3月31日現在

社名：ダイニチ工業株式会社
英文社名：Dainichi Co.,Ltd.
本社：〒950-1295 新潟県新潟市南区北田中780番地6
創立年月日：昭和39年4月1日
資本金：40億5,881万円
従業員数：454名

株式についてのご案内

お取扱窓口 お取引の証券会社等。特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店。

特別口座管理機関お取扱店 みずほインベスターズ証券、及びみずほ信託銀行
 フリーダイヤル0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)

未払配当金のお支払 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店
 みずほ銀行 本店及び全国各支店
 (みずほインベスターズ証券では取次のみとなります。)

ホームページのご案内

当社ホームページでは、「製品情報」や「お客様サポート・お問い合わせ」から「会社情報」までわかりやすくご案内しております。
 また、株主・投資家の皆様には、当社をよりご理解いただくために、「会社情報」内の「株主・投資家情報」で決算短信や財務諸表等各種資料を掲載しております。

<http://www.dainichi-net.co.jp/>

ダイニチ工業

